

(工事名)

彦和田川海岸外災害復旧工事



この台船で現場の寒風沢島まで重機や改良機などが運ばれて行ったそうです。



私が現場に向かった日の漁船からの景色。穏やかな波でした。

宮城県



2016年11月25日 (金)

にしかわの

現場レポート  
-in寒風沢-

資源循環型社会を創造。



一般社団法人 泥土リサイクル協会

<http://www.deido-recycling.jp>

〒492-8266 愛知県稲沢市横地町12

TEL: 0587-23-2713 FAX: 0587-23-2734

今回は、東日本大震災で津波により漁港内に堆積した土砂を浚渫し、その土砂を改良している宮城県の寒風沢漁港改良現場の見学に行ってきました。

まだまだ場所によっては、当時の被害の大きさを感じるところもありましたが、改良された土で稲や雑草が生えている様子を見て嬉しくなりました。



Step 1

土運船にて運ばれる浚渫土



浚渫している場所から土運船で土砂が運ばれる。



Step 2

10t ダンプへ積み込み



浚渫土をきれいにバックホウで均し、高さを計測して運ばれた土量を確認した後、10t ダンプに積み込みを行う。

Step 3  
貯留および  
調泥



箱ダンプにて運ばれた浚渫土を一旦貯留ピットに貯め、調泥処理を行う。



試験練りによって、日々固化材添加量の管理を行っている。

Step 4  
改良プラントへ



バックホウで改良プラントに投入後、ポンプから改良土が押し出される。

(注射器のような構造のピストンシリンダーから改良土を押し出す。※右上の写真)



Step 5  
仮置き場へ



改良された土は普通ダンプトラックで場内の仮置き場へ運ばれる。

(※写真奥が2日前、手前が1日前に改良された土の様子)

改良後、7日程度でコーン指数400 k N/m<sup>2</sup>以上の状態を確保(天気が良ければ3日程度)

Step 6  
利用先



←改良された土は、農地の嵩上げとして利用。

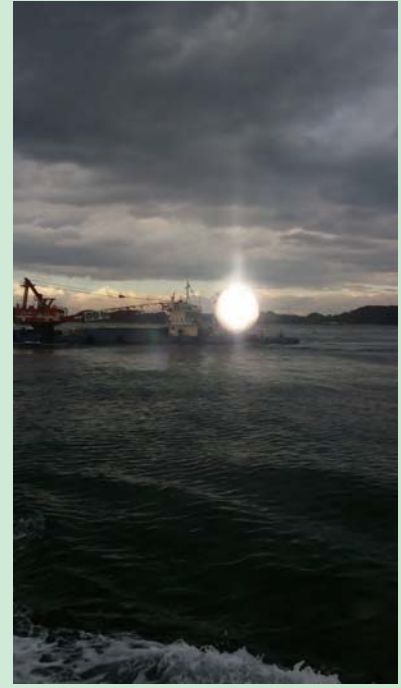


2年前から改良工事が始まり、改良された土によって農地の嵩上げが今後も行われる予定。

## その他



改良現場全体の写真



夕方には現場の寒風沢島から帰る途中、  
こんなきれいな景色が見えることも

東日本大震災から5年が経ちますが、この現場のように復旧工事が行われている場所がまだ残っています。

震災前にこの島に住んでいた方々が、少しずつ戻ってきているとお聞きしましたが、現場の皆さんの様々な管理によって、環境に優しい安全・安心な施工がされることで、以前のような稲作が行われるようになるのでしょうか。

熱海建設の菅原様をはじめ、今回現場を案内して頂いたアベゼンの大坂様、シンコーの小笠原様、お忙しい中ありがとうございました。

西川

